

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 名古屋市立宝神中学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒455-0832
名古屋市港区宝神一丁目 77 番地

E-mail hojin-j@nagoya-c.ed.jp
Website www.hojin-j.nagoya-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 308名 女子 293名 合計 601名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は「生き生きとした学校生活を送ることができる生徒の育成」を学校理念としている。本校が考える生き生きとした学校生活とは「分かった」「できた」「楽しい」を味わうことを通して育まれるものであると考える。

その中で、ESD を人との関わりを通して人格の発展を目指すものと捉え、ESD の実践を通して、仲間とふれ合い、自主的・実践的な力の育成を目標とした。

具体的には、交流活動を柱に①環境教育に関わる活動、②福祉教育に関わる活動、③異世代交流に関わる活動を行った。

① 環境教育に係わる活動

生活環境を知るために、学区近辺にある藤前干潟の学習と見学を行った。小学生の時にも、藤前干潟での学習を行っているが、振り返りと専門的に学習を進めることにより、地域環境の理解が進んだ。

また、全校から有志を募り「清掃ボランティア」として地域清掃を行っている。本年度は、約230名が参加して、1学期・2学期で活動を行った。保護者の方にも参加を依頼し、地域の方と協力して周りの環境を自分たちの手できれいに保つ意識付けとなっている。

② 福祉教育に係わる教育

車椅子で生活をされている方の講演を聞き、社会福祉について学んだ。車椅子で生活する上で感じることを学んだ上で、どのように接することが重要か素知ることができた。持続可能な社会を考える上で、社会福祉の必要性を感じていたようであった。また、その際に、車椅子を借り、実際に体験活動をすることで、車椅子での生活を体験することができた。

③ 異世代交流に係わる学習

以前より、「宝中交流会」として、地域のお年寄りとの交流を行っている。全校生徒より有志を募り季節のお便りから始まり、学校行事への案内、交流会の企画・運営を行った。本年度は、約120名の生徒が参加した。本番当日には、合唱を披露したり、事前に学習した内容を発表したりした。また、お年寄りの方と話したりゲームをしたりと交流を深めることもできた。



① 藤前干潟学習



② 清掃ボランティア



② 車椅子体験



③ 異年代交流活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 (お年寄りとの交流)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校努力点に「分かった」、「できた」、「楽しい」という視点を盛り込み、以下のような内容を重点項目とした。

(1) 更に充実した、教科指導での授業づくりを考えていく必要がある。各教科指導で工夫している点を共有し、教師一人一人の授業力を高める。また、授業だけではなく、行事においても、主体的に取り組む（アクティブ）場面を設定し、継続して成功体験を味わわせるように、指導を行う。

(2) 生徒主体の活動では、日常の場面で一人一人の生徒に具体的な仕事を任せて、その評価を教師だけでなく、生徒相互でも行う。

(3) 各指導場面において、学習内容のつながりを意識させ、成果を確認させる。その成果を自信とさせる。また、社会とつながっていくことを意識させる指導を行う。このことにより、社会を構成していく一員としての考え方を身に付けさせたい。また、3年間を通したつながりを感じられるように指導を持続させていく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

担当者相互の意見交流を密にしている。各行事の担当者は、前年度の担当者からの引き継ぎ事項を基に、本年度の取り組みを決め、より良い活動にしようとして心掛けている。また、他学年に渡って活動する場合には、学年毎の担当で協議を重ね、横断的な活動になるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

「分かった」「できた」「楽しい」をキーワードに、授業や行事等学校生活の各場面において、どのように感じているか生徒にアンケートを採り、以降の活動に生かしていった。

そのアンケートにより、昨年度よりも各項目において、より肯定的な回答をする生徒（各項目で「はい」と答えた生徒）が増えてきたことがわかった。これまでの活動の方向性が間違っていないことが分かる。ただ、否定的な回答をする生徒（「いいえ」「どちらかといえばいいえ」と答えた生徒）も一定数おり、それを減らしたいと考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

各行事等における活動内容は、各学年の学校通信や本校のホームページで紹介し、各家庭だけでなく広く知らせている。活動内容を目に見える状態で知らせることで、地域の方と協力して活動していることを宣伝することができた。

また、ESD コンソーシアムにおいて本校の活動を発表し、他校にも活動を知らせることもできた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

8月4日(金)に行われたESDコンソーシアム愛知交流会に参加し、本校のこれまでの活動状況について発表した。

また、その交流会では参加した犬山市立犬山西小学校・あま市立甚目寺小学校・日本福祉大学附属高等学校の各校の取り組みについて学ぶことができた。特に日本福祉大学附属高等学校の取り組みでは、国内外の学校との交流を深めており、上級学校の取り組みの様子がよく分かり、大変参考になった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

12月2日に行われた第9回ユネスコスクール全国大会に出席する予定であったが、本校の校内事情のために参加することができなくなってしまい、非常に残念であった。来年度にも機会があれば、このような活動に参加し、ワークショップや交流研修会を通して各ユネスコスクールの活動を知るとともに、交流を深めていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

生徒自身が、各行事を通して、環境・福祉などの実態に触れ、主体的に活動することで仲間とともに自分たちの手で行おうとする意識が高くなった。
教職員も「分かった」「できた」「楽しい」の指針に向けて活動しようとしており、ESDの理念に沿った活動を心掛けている。
生徒や教職員がユネスコス쿨としての誇りを胸に活動することで、高い理想を見据えて活動することができている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまでの計画を踏まえながら、一人一人が「分かった」「できた」「楽しい」を味わうことができる活動を目指していく。
有志活動に多くの生徒が参加しているが、有志以外の活動を増やすことで、意欲が余り高くない生徒に対しても意欲の喚起を目指していきたい。
例えば、防災の活動に関しても福祉教育の観点と合わせてみる。災害時要援護者に対して、非常時にどのような活動ができるのかを一人一人で考え合ったり、要援護者の方の話を聞いたりする。本活動を人権週間にもあわせた活動にすることで、より意欲の喚起を促したい。